

クック財団、米国著名大学は学業成績優秀な低所得層学生に入学機会を提供する
門戸を拡大すべきと提言（1月11日）

ジャック・ケント・クック財団（Jack Kent Cooke Foundation）は1月11日、米国著名大学に入学する学生の現状に関する報告書「本当の価値 ～最も聡明な学生に対する名門大学へのアクセスの確保（True Merit: Ensuring Our Brightest Students Have Access to Our Best Colleges and Universities）」を発表した。本報告書は、学業成績が優秀な低所得層の学生には不当な障壁があり、名門大学に入学する学生の中で収入レベルが国民全体の下位25%に含まれる家庭出身の学生が占める割合は全体の3%に過ぎないことを指摘した上で、米国トップレベルの大学では、競技選手や卒業生の子息に対する優遇措置と類似した措置を取るべきであると提言した。同報告書によると、最も競争率の高い米国大学では、学生全体の72%が収入レベル上位25%の富裕層家庭の出身であるという。それ以外の主要な調査結果は以下の通り。

- ・学業成績優秀な低所得層家庭の生徒のうち、競争率の高い大学に出願する生徒は全体の23%に留まるのに対し、高所得層家庭の学業成績優秀な生徒では全体の48%。
- ・米国で最も競争率の高い大学の80%以上が、卒業生の子息（富裕層の場合が多い）に対して入学を優遇。
- ・リクルートされた競技選手学生は、同程度の学業成績の学生と比較して合格する確率が4倍である一方、入学後の学業成績は大きく低下。
- ・学業成績優秀な低所得層家庭の生徒のうち、ACT/SAT試験準備コースを受講する生徒は富裕層の生徒の約半数。

なお、本報告書は、<http://www.jkcf.org/assets/1/7/JKCF_True_Merit_Report.pdf>からダウンロード可能。

Jack Kent Cooke Foundation, New Report Calls for An Admissions Preference for Low-Income Students

<http://blog.jkcf.org/welcome-to-the-jack-kent-cooke-foundation-blog/new-report-calls-for-an-admissions-preference-for-low-income-students>